「全国壮年大会in東京に向けて」

第58回全国壮年大会（東京）実行委員長　坂口　昌彦

全国の主に繋がる壮年の皆様！主のみ名を賛美いたします。

本年2023年は第58回全国壮年大会が東京で開催されますが、その時期が徐々に迫っております。私共、第58回全国壮年大会実行委員会も後3ヵ月強と迫った大会に向けて加速して準備に勤しんでおります。

昨年、北海道開催の第57回全国壮年大会のアピールの時間に於いて全国の壮年の皆様にPRをさせて頂き、更にこれまでの全国壮年会連合ニュースでも案内をさせて頂きました。重複する所もありますが改めてまたこの連合ニュース第126号の紙面を頂いて、今日までに確定している事、今後の進め方などのご報告並びにご参加のご案内をさせて頂きます。

いよいよマスクからの解放も実現しそうです。予断は許されませんが久々の2日間の対面に加えて多数の参加をし易くするためオンライン併用による開催を予定致しております。今回は、参加者が只一方的に聞くだけではなく、共に語り合う場を設けたいと十分な時間を取った分団と称する「ミーティングルーム」を企画しております。その中で皆様の教会が元気になるためにはどうすれば良いかなどのアイデアや意見及び皆様の日頃の活動・問題点・悩み・提案などを忌憚なく語り合って頂ければと願っております。勿論、老若男女を問わず多くの方々のご参加を願っております。

実行委員会は、東京の大会が主の御心に沿ったものとなり、全国壮年の皆様にお喜び頂ける大会となります様祈り進めて参っておりますので期待下さい。

東京でお会い致しましょう。

大会期間：2023年8月25日（金）～26日（土）
会　　場：大井バプテスト教会　（オンライン併用）
大会主題：「教会が元気になるには」
副　　題：「にも拘らず、新しい共同体を求めて」
主題聖句：
「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」
創世記２章18節
主題講演：大会主題に同じ
講　　師：濱野　道雄先生
（西南学院大学神学部教授、鳥栖教会協力牧師）
分　　団：大会主題と講演を中心とした懇談と分かち合い

Sonen.net

公　告　2023年度全国壮年会連合総会に関わる件

規約細則第６条の定め（６０日以上前）により表題の件を通知いたします。

- 総会日時：2023年８月24日（木）
  総会は文書による総会とし、投票結果の開票日を総会日とする。
- 開催場所：日本バプテスト連盟事務所
- 議案：全国壮年会連合ニュース第127号（６月下旬頃予定）でお知らせします。
- 代議員登録（規約細則第４条、第７条による）
  ※ 派遣代議員：各教会・伝道所３名まで登録可能
  登録締切日：5月30日（火）
  （登録用紙同封）右のURL,QRコードからダウンロード可能です。
  ※規約細則９条により壮年会等は議案を提出できます。
  5月30日（火）までに役員会sonen@bapren.jpに提出ください。

Sonen.net

公　示　2023年度総会において以下の通り選挙を行います。

＜立候補対象＞
●２０２４・25年度　日本バプテスト連盟全国壮年会連合　会長、副会長　各１名および監査２名
「全国壮年会連合　規約」第７条および「同　規約細則第２１条」による。
会長立候補者は総会にて事務局長、書記、会計各１名を指名し承認を得ることとなりますので、事前に選考願います。

＜立候補対象＞
●2023・24年度　奨学金委員長　　「全国壮年会奨学金規程」第5条２項による。
立候補者は総会にて４名の奨学金委員を指名し承認を得ることとなりますので、事前に選考願います。

●立候補締切日：５月30日（火）
●全国壮年会連合規約細則第２３条による選挙管理委員会の委員長宛に、書面で届出をしてください。
届出の内容は、「立候補する役員名、氏名、所属教会、受浸年月日」を記載してください。様式は自由です。
〈届出先〉
〒336-0017　さいたま市南区南浦和11-2-4
日本バプテスト連盟全国壮年会連合気付　選挙管理委員長

注１）選挙管理委員会は、立候補締切日に、候補者名を役員会に連絡し、役員会は議案書に名前を記して議案とします。
注２）会長と監査が同一教会・伝道所から立候補があった場合、選挙管理委員会にて調整させていただきます。

日本バプテスト連盟全国壮年会連合
〒336-0017　さいたま市南区南浦和1-2-4
事務局執務：月、水、金　10:00～16:00☎・fax：048-886-7533　http://www.sonen.net　sonen@bapren.jp

伝道者養成＆教会形成
全国壮年会連合NEWS
第126号
2023/4/20
発行
日本バプテスト連盟
全国壮年会連合
発行人：山田誠一
編集人：三室一朗
Topics Password ▸ sorengo

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605　日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

「主が呼び集められた人々に期待する！」

全国壮年連合会長　山田誠一

新しい年度となりました。コロナの影響も弱まってきて巷でも人々の活動が盛んになってきました。しかしコロナの影響がなくなったのではないので慎重な行動も必要でしょう。それでも、私たちにとっては毎週の礼拝が対面(Web併用)で出来るようになったのは嬉しい恵みです。教会学校や信徒会の活動も盛んになる事を願っています。

さて、コロナだけではないキリスト教会の課題もあります。こちらも避けて通れない問題です。ひとつは高齢化によるもので全年齢層での教会学校の活動が難しくなっています。さらにコロナの影響が拍車をかけました。また、信徒会の活動においては女性会、壮年会と分けての今までのような活動も難しくなってきています。ここにはジェンダーの問題があり、全ての人の基本的人権を尊重する上でのこれからの教会活動のあり方が問われています。

バプテスト教会は全ての人に開かれていて、集われる一人ひとりが等しく教会形成を担います。牧師や教役者、一部の人だけではありません。主が呼び集められた人々で教会を形造ります。私たち壮年もその一人です。教会にはいろいろな役割があります。パウロもコリントの信徒への手紙Ⅰ・12章12節で、「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。」。この様に体(教会)は一つであっても、多くの部分(私たち)から成る。ここに私たちは希望を見出すのです。

教会の主であるキリストはご自分の体(教会)を必要に応じて必ず整えてくださると信じています。そして、集められた私たちに期待されています。その私たちは自分をまず大切にして、祈り、主に聞き、明るく前向きに主の示された事を行なっていくことが必要なのではないでしょうか！私たち壮年も主の期待に応えたいです。

「神学生の証し」

西南学院大学大学院 神学部 博士前期2年　原田　仰（推薦教会　平尾教会）

いつも私たち神学生のために祈り、お支えくださっております全国の諸教会の皆様に心より感謝申し上げます。私たちもいただいている恵みに応えられるように日々精進してまいりますので、引き続き宜しくお願い致します。また、諸教会の皆様にも神様の祝福と護りがありますようお祈りいたします。

最近は新型コロナウイルスとの付き合い方も変わっていき、この3年間に制限されていたことが少しずつ解放されていっています。以前のような自由度を取り戻されつつある中で、しかし教会はただ以前の状況に戻るのではないことは、この数年間ずっと言われてきたと思います。これからはまた、この3年ほどの期間とも、それ以前の期間とも違った歩みが私たちに与えられています。無批判に元に戻すのではなく、これまでの変化、見えてきた以前までの活動の課題を見直し、新たに始めていくことが神様から求められているのだと思います。必要なのは「回復」というよりかは、「更新」なのです。そのことを意識して、神様に仕え、教会に仕え、学んでいく一年にしたいと思います。

そんな私の神学校での学びも最後の一年となりました。ここまで様々な人々、教会との出会いがあり多くの学びと励ましをいただきました。3月には南名古屋キリスト教会にて10日間の実習をさせていただきました。今まで私が研修をさせていただいたどの教会とも違った文化をもつ教会でした。しかし、その中で同じように神を見つめる姿を通して自分自身に問われる事柄も多くありました。自分が育った現場とは違う背景を持つ現場へ赴くという経験を通して、自分が見ようとしている範囲が如何に狭かったのかを知る良い機会にもなりました。今年もまた、今までとは違った特色を持つ教会で研修をさせていただきます。そこで働かれる神をじっくり丁寧に見させていただきたいと思います。

日本バプテスト連盟奨学金を希望される方へ

日本バプテスト連盟奨学金を希望される方は「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」に基づき、下記の要領で申請いただくようお願いいたします。詳細は日本バプテスト連盟全国壮年会連合へお問い合わせください

≪申請期限≫ 2024年度入学予定者‥‥2023年10月2日（月）（必着）

≪申請書類≫

※ 申請書類及び関連規程は全国壮年会連合ホームページ
http://www.sonen.net の「ドキュメント」ページからダウンロードして下さい。

※ なお、本様式は西南学院大学に提出する書類とは異なり、
本奨学金貸与申請専用の様式です。お間違いないようご注意ください

申　請　書　類	入学予定者
◇西南学院大学神学部・大学院学生奨学金願書	○
◇奨学金申請に関する推薦教会の推薦決議書	○
◇西南学院大学神学部・大学院学生奨学金申請用履歴書	○
◇召命・献身決意書（神学部提出のコピーは不可）	○

≪問合せ・資料等請求先≫

〒336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和1-2-4 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局
Tel/Fax:(048)886-7533（月・水・金 10:00～16:00） e-mail:sonen@bapren.jp

「主の招きを頂いて」

西南学院バプテスト教会協力牧師　　踊　一郎

１．最初の招き

私が主イエス・キリストを信じてクリスチャンになったのは、父が牧会する今治教会で小学5年生の時でした。最初に献身を考えたのは中学１年、関西・中四国地方連合の少年少女修養会の時でした。そこで一緒に献身を表明した中に、広島教会の松田正三牧師の息子の稔さんがいました。「一緒にイエス様のために頑張ろう」と彼に声をかけてもらい、とても嬉しかったことを記憶しています。ところがそれから間もなく「ミノルシス」という電報を松田正三先生から受け取ったのです。手が震えました。鉄材を2トン満載したトラックがカーブを曲がり切れず、側を通っていた稔さんの上に崩れ落ちたのでした。「一秒でもずれていたら助かったのでは？　どうして神さまは稔さんを守ってくださらなかったのだろう？」。私は信仰に対して懐疑的になりました。

２、聖書との出会い

私は次第に献身を避けるようになりました。その後大学受験に失敗、京都の予備校に通うため親元を離れることになりました。聖書を持って行こうとしない私のカバンに、父は自分の訪問用聖書を無理に押し込みました。なんとそれが聖書と真正面から向き合う転機となったのです。カーテンも電球もない予備校の寮で私は心細くて父の聖書を手に取り、マタイ福音書１章のイエス・キリストの系図を読みました。この人々の中には今の私と同じように孤独で不安を抱えた人もいたのではないか、そう思うと急に聖書が身近なものに思えたのです。その時から私は聖書を毎日読み親しむようになりました。

３．二度目の招き

翌年の春、家庭の経済事情から私は松山の大学に入学しました。当時はマルクス経済学が盛んな時代でした。父が牧師で、私自身クリスチャンという立場では「宗教はアヘンだ」といった大学での宗教批判は辛いものでした。キリスト教とマルクス主義、双方の声を聞きながら私は大学3年になっていました。

4月のある日、午後からの講義に出るため私は今治発の列車に乗って大学に向かいました。暖かい陽射しが差し込む車内で『マルクス経済学の方法』という本を読んでいました。すると突然金属のきしむ嫌な音を立てながら列車が急停車しました。車内がにわかに騒々しくなりました。私は急いで窓を開けて外を見ました。そこに小さな男の子の身体を発見したのです。春の暖かさに誘われ線路を越えてレンゲの花を摘みに行き、戻ろうとしていたのでしょうか、小さな遺体の周辺にはピンクのレンゲが散らばっていました。

その列車はわずか10分停車し、男の子の側に呆然と立ちすくむ若い両親を残して再び発車しました。私は混乱状態に陥りました。たった今幼い命を奪った車輪、その車輪の上に車体があり、そこに私が座っているのです。車輪の振動が私の身体に伝わってくるのです。耐えられませんでした。「車輪って何だ？　単なる物ではないか。大学では物の豊かさが人を幸福にすると言うが、その物がたった今人の命を奪ったではないか」。

その時でした、心に細い静かな声が聞こえてきたのです。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」（マタイ4:4）。主よ、その通りです。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか」(イザヤ6:8)。わたしがここにいます。こんなわたしで良ければ、遣わしてください。こうして私は献身の道を歩み出したのです。

４．牧師として召されて

大学での学びを終えた私は神学部に進み、牧師となって早や47年が経ちました。講壇に立つ時は今でも、共に献身した松田稔さん、あの小さな男の子が一緒に立っているような気がするのです。

「出会いを通して」

大分キリスト教会 牧師　村田悦

「どのような召命を受けて、今日に至っているのか。生の声を聞かせて欲しい」という依頼で、この原稿を書いています。私は、クリスチャンホームに生まれ、幼い頃から教会に行っていました。小3の時に、イエス・キリストを救い主と告白し、バプテスマを受けました。しかし、成長するにつれて、「イエス・キリストの救いとは何か」「自分は何から救われたのか」わからなくなっていきました。

私には兄がいます。私にとって自慢の兄です。兄の背中を見ながら、兄のようになりたいと思っていました。しかし、中学に入学して、私は兄とは違うという現実に直面しました。入学して最初の英語の授業。私はまだアルファベットを書くことができませんでした。授業が終って先生から「あれ、君、〇〇君（兄の名前）の弟だよね？君はできないんだ」と言われました。親戚からも「お前は馬鹿なんだから、お兄ちゃんと同じようにやってたら駄目なんだよ」と言われました。兄のように勉強ができなければだめなのだという考えが、私を支配するようになっていきました。しかし、私は、黙って机に向かうということがどうしてもできず、親戚に言われた通り、成績は全く伸びませんでした。でも、“人から認められたい”という想いは人一倍強かったので、嘘をつきました。３０点のテストを８０点取ったと嘘をついたのです。友人たちは、その言葉を信じました。それから私は、嘘をつき続けました。一つの嘘を隠すために、沢山の嘘をつきました。“嘘を本当にするしかない”と思って、背伸びして受験した高校は不合格。しかし、奇跡が起こりました。補欠合格。高校に行って私は変わる、もう嘘はつかないと決心しました。しかし、結局、何も変わりませんでした。テストの点数を偽ることは無くなりましたが、認められたくて、居場所を失いたくなくて、どこか、いつも嘘で自分を覆っていました。

そんな私に声をかけてきたのが、札幌教会の石橋大輔牧師でした。きっかけは、私が万引きをして警察に捕まったことでした。父が石橋牧師に相談したようです。電話で「大丈夫か」と言われました。大丈夫ではなかったのですが、ほとんど話したこともなかったので、「大丈夫です」と応えて、すぐに電話を切りました。「ばれてしまった」と思いました。中学の頃から足が遠のいていた教会でしたが、よけい行きづらくなりました。でも、そんな私に、石橋牧師は、折に触れて、声をかけてくれました。「ソフトボールをするから」「お昼ご飯を奢るから」…。「ばれてしまっている」と思っていたせいか、気が楽でした。次第に、遠のいていた足が、教会へ向かうようになりました。そして、そこで、弱さや欠けのある私を、そのまま受け止め、共に歩んでくださっているイエス様がいること。教会が、そのイエス様によって、受け入れられている人々の群れであることを知りました。「自分だけじゃない。あの人も、この人も、みんな、弱いし、欠けがある。強く見えているだけなんだ。」そう思えて、とても楽になりました。教会が好きになりました。そして、いつからか、この教会のために働きたい。ありのままを受け止められているという福音を、ありのままじゃだめだと思っている人々と共に分かち合い、喜び合いたいと思うようになっていきました。それが、牧師になろうと思うようになった、きっかけです。

正直私は、牧師として召されているのかどうか、わかりません。神様の声を聞いたわけでもありませんし、明確なしるしを与えられたわけでもありません。でも、教会から離れていた自分が、様々な出会いやつながりを通して、再び教会に導かれ、イエス様と出会いなおし、教会を好きになり、教会を支えたいと思うようになった。それは、私が意図したことではありません。様々な出会いやつながりを通して、整えられていったこの想いを大事にしたいと思っています。